

■ 概況

10/28～11/3のNYMEX・WTI先物市場は、80.86～84.05ドルの範囲で推移した。

4日は、追加増産見送りを決定した産油国会合の結果にもかかわらず、売りが優勢となり、3日続落した。12月限の終値は、前日比2.05ドル安の78.81ドルと、約1カ月ぶりの安値水準となった。OPECプラスは、4日の会合で、毎月日量40万バレルずつ増産する従来の方針を12月も維持すると決めた。経済再開に伴う旺盛な需要が供給を上回る状況が続くため、当面の需給の引き締まりを見込む買いが先行したが、その後は売りに押された。OPECプラスの生産調整の維持は市場の予想通りで、結果を受けて目先の利益確定の売りが出たものとみられる。

週末5日は、4日ぶりに反発した。12月限の終値は、前日比2.46ドル高の81.27ドルで取引を終えた。朝方発表の10月の米雇用統計で雇用者数は市場予想を上回る伸びとなり、エネルギー需要の増加観測が強まり、需給が引き締まった状態が当面は続く見込みが広がった。

週明け8日は、世界的な景気回復期待の高まりによる需給引き締まり観測を支えに続伸。12月限の終値は、前週末比0.66ドル高の81.93ドル。バイデン米大統領の政策の柱である約1兆ドル規模のインフラ投資法案が可決。景気回復期待から原油の買い地合いが継続した。また、米政府がワクチン接種済み者を条件に外国人観光客の入国制限を撤廃し、各国でも同様の規制緩和が進行。ジェット燃料需要が世界的に高まるとの観測も相場の下支えとなった。

9日は、3日続伸した。12月限の終値は、前日比2.22ドル84.15ドル。世界経済の回復による原油需要の高まりを背景に、価格が高止まりするとの見方から買いが優勢だった。ま

た、米下院が5日に可決した1兆ドル規模のインフラ投資法案が米景気回復を後押しし、原油の需要増につながるの見方が強まった。米国は8日から外国人旅行者に対し、新型コロナウィルスのワクチン接種証明の提示があれば入国できるようになった。人の移動が増え、米経済が活性化すると期待も強い。

10日は、4営業日ぶりに反落した。12月限の終値は、前日比2.81ドル安の1バレル81.34ドル。米エネルギー情報局(EIA)が10日に発表した週間統計で原油在庫が増え、米政府が戦略備蓄を放出すると観測も相場の重荷となった。

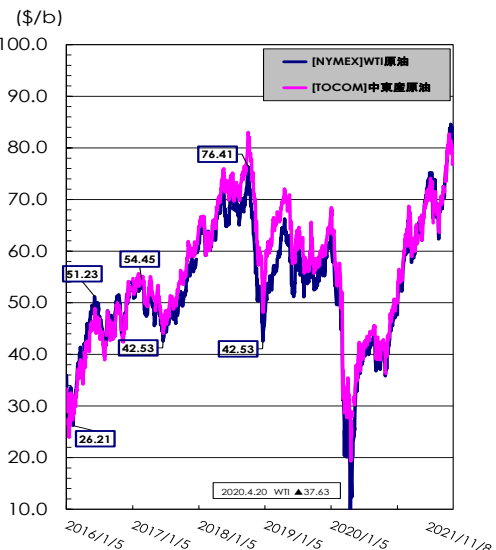
アジアの指標原油である中東産バイ原油/東京市場(12月渡し)は、10月28日～11月3日の間、81.30～82.80ドルの範囲で推移した。11月4日79.20ドル、5日78.30ドル、8日81.90ドル、9日81.60ドル、10日83.60ドルで推移した。

為替は10月28日～11月3日の間、113.67～114.11円の範囲で推移した。11月4日114.14円、5日113.78円、8日113.62円、9日113.27円、10日112.86円で推移した。

財務省が11月8日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、10月中旬の原油輸入平均CIF価格は、53,506円/klで、前旬比1,079円高、ドル建て76.40ドルで前旬比0.55ドル高、為替レートは1ドル/111.34円。

そのような中で、11月8日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.3円の値上がり、軽油は同0.3円の値上がり、灯油は同10円の値上がり(18%ベース)だった。ガソリンは10週連続の値上がり、軽油も10週連続の値上がり、灯油も10週連続の値上がりだった。この週(11月第2週)の原油コストは値下がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、前週比0.5円の値下げとなった模様。

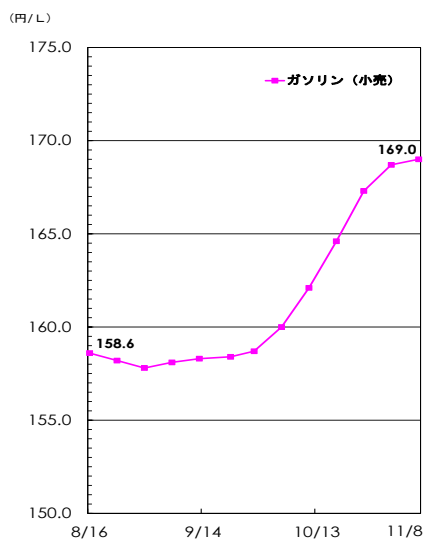
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	10/31 ~ 11/6	2,696 ▲ 55	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	70.0 ▲ 1.4	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	11/6	9,304 ▲ 222	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	11/8	79.87 ▲ 0.21	▲ 39.5
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	11/8	81.93 ▼ -2.12	▲ 41.6
	原油CIF単価 (\$/bbl)	10月中旬	76.40 ▲ 0.55	▲ 31.86
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	53,506 ▲ 1,079	▲ 23,949
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	111.34 ▼ -1.45	▼ -5.83
	外国為替TTSレート (¥/\$)	11/8	114.62 ▲ 0.47	▼ -10.27



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/31 ~ 11/6	928 ▲ 92	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	744 ▲ 19	▼ -	
	輸出	"	179 ▲ 42	▲ -	
	在庫	11/6	1,555 ▲ 5	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/2 ~ 11/8	77.0 ▼ -0.2	▲ 36.2	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/2 ~ 11/8	75.9 ▼ -0.5	▲ 38.1
		(TOCOM/中部)	11/8	77.0 ➡ 0.0	▲ 36.3
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/8	169.0 ▲ 0.3	▲ 36.1	

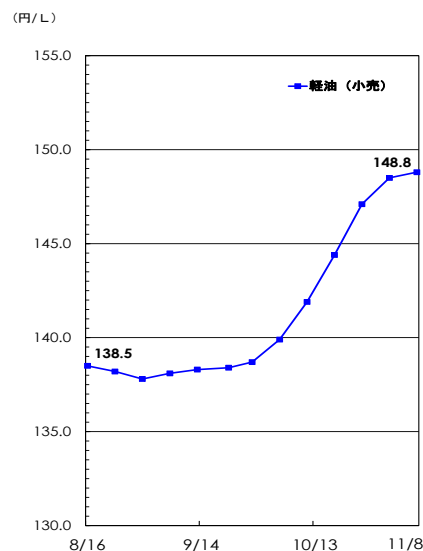
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

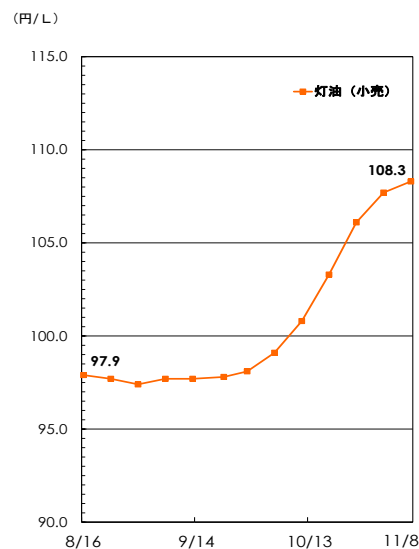
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/31 ~ 11/6	646 ▼ -64	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	594 ▲ 29	▼ -	
	輸出	"	94 ▼ -106	▲ -	
	在庫	11/6	1,341 ▼ -42	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/2 ~ 11/8	77.8 ▼ -1.0	▲ 34.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/2 ~ 11/8	79.6 ▲ 0.1	▲ 33.4
		(TOCOM/中部)	11/8	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/8	148.8 ▲ 0.3	▲ 35.1	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/31 ~ 11/6	289 ▲ 61	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	134 ▼ -103	▼ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	▼ -	
	在庫	11/6	2,757 ▲ 155	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/2 ~ 11/8	77.8 ▼ -0.9	▲ 35.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/2 ~ 11/8	76.1 ▼ -0.4	▲ 35.2
		(TOCOM/中部)	11/8	77.2 ➡ 0.0	▲ 34.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/8	108.3 ▲ 0.6	▲ 29.3	



■ 関連情報

1 海外/原油

11月10日のNYMEX先物原油は、4営業日ぶりに反落し、12月限の終値は前日比2.81ドル安の81.34ドル。1月限は2.50ドル安の80.06ドルだった。米エネルギー情報局(EIA)が10日に発表した週間統計で原油在庫は3週連続で増えた。米政府の戦略備蓄の減少が近年では大きく、原油在庫の増加につながったとの見方があった。市場では米政権がガソリン高などを抑えるため、近く大規模な戦略備蓄の放出に踏み切るとの見方も浮上している。外国為替市場でドルが対主要通貨で上昇した。インフレ懸念などからドルの先高観が強まっており、ドル建てで取引される原油が割高とみなされたの

も売りを誘った。

EIAによると、11月8日時点のガソリンの小売価格は、前週比2.0セント値上がりの1ガロン3.410ドル(103.1円/ℓ)、ディーゼルは同0.3セント値上がりの3.730ドル(112.8円/ℓ)となった。ガソリンは6週連続の値上がり、ディーゼルは8週連続の値上がりとなった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2021年10月31日～11月6日に休止したトッパー能力は46.6万バレル/日で、前週に対して5.3万バレル/日減少した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は269.6万klと、前週に比べ5.5万kl増加。前年に対しては6.3万klの増加。トッパー稼働率は70.0%と前週に対して1.4ポイントの増加、前年に対しては1.6ポイントの増加となった。

生産は前週に比べて軽油が減産、その他の油種で増産となった。

ガソリン/11.0%増、ジェット/11.6%増、灯油/26.9%増、軽油/9.0%減、A重油/28.1%増、C重油/11.7%増。今週のC重油の輸入は0.4万kl(前週比0.4万kl増)。軽油の輸出は9.4万kl(前週比10.6万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でガソリン、軽油が増加し、その他の油種で減少した。

前年比ではジェットが増加し、その他の油種で減少した。

ガソリンの出荷は74.4万kl(対前週2.6%増)と3週振りに増加した。

ジェット7.1万kl(対前週19.9%減)、灯油13.4万kl(対前週

43.6%減)、軽油59.4万kl(対前週5.2%増)、A重油16.1万kl(対前週13.1%減)、C重油12.3万kl(対前週25.1%減)。

(単位:千kl)

	今週 (10/31 ~ 11/6)	前週 (10/24 ~ 10/30)	前週比	
ガソリン	744	725	▲ 19	(3%)
ジェット燃料	71	89	▼ -18	(-20%)
灯油	134	237	▼ -103	(-43%)
軽油	594	565	▲ 29	(5%)
A重油	161	185	▼ -24	(-13%)
C重油	123	165	▼ -42	(-25%)
合計	1,827	1,966	▼ -139	(-7%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

11月6日時点の在庫は、軽油で取り崩しとなり、他の油種で積み増しとなった。

前年に対しては全油種で減少となった。

ガソリンは155.5万kl、前週差0.5万kl増。前年に対しては38.2万kl少ない。

灯油は275.7万kl、前週差15.5万kl増。前年に対しては15.4万kl少ない。

軽油は134.1万kl、前週差4.2万kl減。前年に対しては26.7万kl少ない。

A重油は75.2万kl、前週差4.1万kl増。前年に対しては2.2万kl少ない。

C重油は177.2万kl、前週差1.4万kl増。前年に対しては7.6万kl少ない。

(単位:千kl)

	今週 (11/6)	前週 (10/30)	前週比	
ガソリン	1,555	1,550	▲ 5	(0%)
ジェット燃料	718	712	▲ 6	(1%)
灯油	2,757	2,602	▲ 155	(6%)
軽油	1,341	1,383	▼ -42	(-3%)
A重油	752	711	▲ 41	(6%)
C重油	1,772	1,758	▲ 14	(1%)
合計	8,895	8,716	▲ 179	(2.1%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

11月2日～8日の指標原油価格は前週比で値下がりし、為替レートは変わらず、円建ての原油コストは値下がりしたものと見られる。

次週(11/11～17)の大手元売卸価格はガソリン・灯油・軽油ともに、全社前週比0.5円の値下げとなった模様。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

11月2日～11月8日の製品スポット市況は、10月26日～11月1日平均と比べ、軽油の先物取引の値上がりを除いて、他の油種・取引で、値下がりした。

直近週(11/2～11/8)の陸上スポット価格平均値は、前週(10/26～11/1)比で、ガソリンは0.2円の値下がり、灯油は0.9円の値下がり、軽油は1.0円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(11/2～11/8)に、前週(10/26～11/1)比で、ガソリンは0.9円の値下がり、灯油は0.7円の値下がり、軽油は1.2円の値下がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは0.5円の値下がり、灯油は0.4円の値下がり、軽油は0.1円の値上がりだった。

(RIM)		(単位: 円/%)		
[陸上ローリー 4地区平均]		今週 (11/2～11/8)	前週 (10/26～11/1)	前週比
ス ポ ッ ト 価 格	レギュラー	77.0	77.2	▼ -0.2
	灯油	77.8	78.7	▼ -0.9
	軽油	77.8	78.8	▼ -1.0

(TOCOM)		(単位: 円/%)		
[期近物/終値 [平均]]		今週 (11/2～11/8)	前週 (10/26～11/1)	前週比
先 物 価 格	レギュラー	75.9	76.4	▼ -0.5
	灯油	76.1	76.5	▼ -0.4
	軽油	79.6	79.5	▲ 0.1

※上記価格は税抜き価格

参考値 (11/2～11/8実績値) (単位: 円/%)			
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.2	▼ -0.5	▼ -0.3
灯油	▼ -0.9	▼ -0.4	▼ -0.6
軽油	▼ -1.0	▲ 0.1	▼ -0.5
A重油	▼ -1.0		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

11月8日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.3円高の169.0円、軽油は同0.3円高の148.8円、灯油は18%ベースで同10円高の1,949円(1%ベースでは同0.6円高の108.3円)。ガソリンは10週連続の値上がり、軽油も10週連続の値上がり、灯油も10週連続の値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは25都府県で、横ばいは9県、値下がり13道県であった。全国最安値は163.7円の徳島県、その次は、163.9円の岩手県、他方、最高値は176.4円の長崎県と鹿児島県だった。値上がりしたのは、最も値上がりした高知県(先週比2.2円高)他25都府県

で、横ばいは、長野県他9県、値下がりしたのは、最も値下がりした愛知県(同0.6円安)他の13道県だった。

今週(11月2日～8日)の指標原油価格は値下がりし、為替レートは変わらず、円建ての原油コストは値下がりしたものと見られる。次週(11月11日～17日)適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社前週比0.5円の引き下げとなった模様。次回調査時(11月15日)のガソリンの小売価格は、これまでの卸値上げの進捗状況を踏まえると据え置きが予想される。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/%)			
		今週 (11/8)	前週 (11/1)	前週比	直近高値
小 売 価 格	レギュラー	169.0	168.7	▲ 0.3	08/8/4 185.1
	灯油	108.3	107.7	▲ 0.6	08/8/11 132.1
	軽油	148.8	148.5	▲ 0.3	08/8/4 167.4

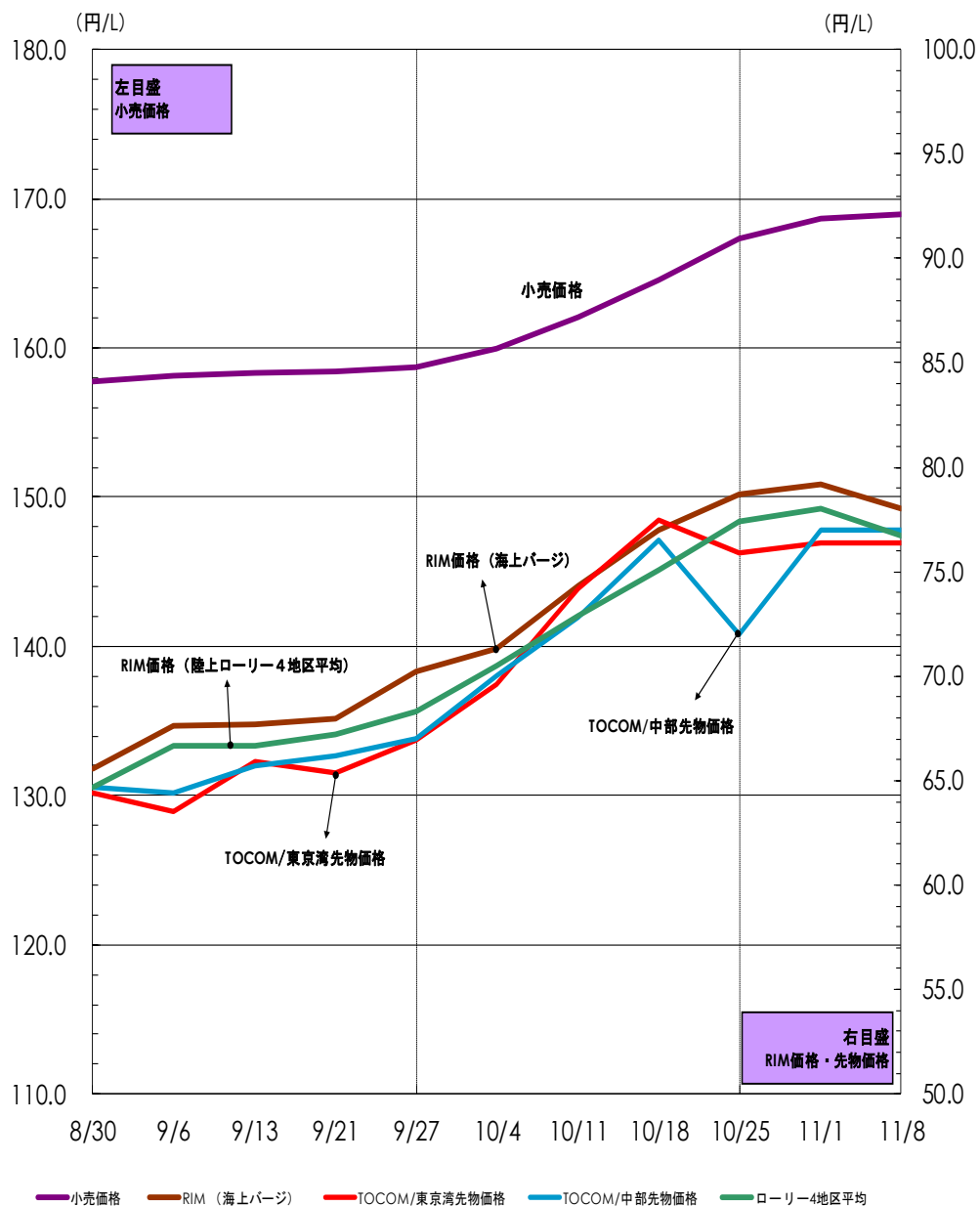
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2021/8/30 ~ 2021/11/8)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2021第32号)の公表は、11/19(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(令和3年3月末現在)は、8月25日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。